

「つながり」

～あなたに関係ないことはない！！～

マタイ16:19、18:19~20

昔は、近所の人で仕事が無いと言えば周りの人で何とか助けてあげようとしていました。しかし今は、ほとんどこのようなことありません。人と人との関係が希薄になることでお互いが無関心になっているのです。その結果、困った時に困っている人がその状況から脱出できなくなってしまっています。人が人に対して「自分には関係ない」と思い、それが当たり前の社会になっているのです。「私たちには関係ない」はないですか？神さまは、人に関係をもたせるために人をつくりました。だから1人ではありませんでした。2人にしてその2人から子どもが生まれるようにしました。また、アブラハムにも子孫が海の砂・夜の星のように増えることを約束されました。それは、それぞれがそれぞれで勝手に生きるためではなく、お互いに関わり合って助け合い、また、関係・つながりをもつためでした。そのつながりをもつために私たちはつくられたのです。しかし、そのつながりを無視して私たちは「自分だけで生きている」と思ってしまいます。これは人においてだけではなく社会・現実においてもおきています。そのことに関心をもっていますか？それとも「自分には関係ない・興味ない」と言って終わりますか？私たちが、どうしてその現実を見たのか…私たちは、何事も偶然でも運命でもなく必然だと知っています。神さまは、私たちに様々な計画を用意されています。しかしその中で、偶然と思えるものの中から神さまからのメッセージをさがしなさいと聖書の中から学んでいます。「なぜ、自分がそこに居合わせたのか」突き詰めていくとそれは偶然ではありません。知るべき人が知るべきだから見せられるのです。誰もが気付くわけではありません。私たちには、多くの人がまかされています。それなのに「自分には関係ない」と言って、人との関係を切っていないでしょうか？世の中のもので人が関わっていないものはありません。全てが人と人との関係です。だけど、その関係を私たちは「関係ない」と言ってしまいます。しかし聖書はその「関係ない」と思われる隣人に対して愛をもちなさいと教えています。私たちはこの「関係ない」を捨てることができますか？自分には関係のあることだと思い、つながりをもつことができるでしょうか？今、自分にはつながりがありますか？何つながりがありますか？人とのつながりは、最初は1つですが多くの人と関わると色々と組み合わさって多くのつながりになります。よく「血のつながり」「身内だけ」と言う人が多いですがこれは「自分たちさえよければ」のさえるものです。これは、最初の人とのつながりの根元であってこのままではいけません。ここから先に、いかに私たちが関係をつなげていくのかを神さまは求められています。「私たちに関係のないつながりはない」と言われています。私たちは、「これは私に関係ある・無い」と線引きをして生きる方が楽です。しかしどういう理由で線を引きしているのでしょうか？ほとんどの場合が自分に利益があるかどうかです。しかし聖書の中には「まさか自分に利益がある」として無いことで利益を得ています。たとえばロトです。御使いをかくまった時御使いだと知っていたにもかかわらずはありません。(マタイ16:19、18:19-20)ここで、私たちがもらったものがあります。それは教会の鍵です。教会の鍵をゆだねられたと言うことは、私たち自身に地上と天でつながれるもの全ての権威を与えられたと言うことです。だから「私は1つの鍵を与える」とペテロが言われた後にこの御言葉が語られたのです。私たちに任された鍵ですから、その人に私たちが責任をもって伝えることによって救われる・私たちによって赦される・私たちによって導かれるということです。だから私たちが線を引き「関係ない」と言った時点でその人は救われない・その環境は変わらないことになってしまいます。私たちがその人を見捨てたことになり、それだけの責任を持っていると言うことを理解しなければいけません。神さまがもし私たちにを見せて私たちが気付いてその上で「関係ない」と言う時はしっかり注意してください。本当に自分はそれに関わらなくていいのか…イエス様がもし異邦人の救いを否定されたら私たちは救われませんでした。最初は誰でも自分には関係ない領域があります。しかしその領域に対してそれでも神さまが気付かせるのなら向かい合わなくてはいけないことがあるはず。これから受難週でイースターを迎えます。イースターはただイエス様が復活されて罪が赦されるだけでなく私たちの重荷を負うために十字架にかかれたことを思い起こす日です。私たちの罪を背負うためにイエス様は死んだのです。私たちが「関係ない」と言い張って愛を流さなかった人のために、その人たちの苦しみをイエス様は背負われたのです。私たちも同じように裏切られ苦しみ、これらを代わりに背負うためにイエス様は十字架にかかれたのです。だからイースターの受難をおぼえるにあたっては受難をどこに覚えるかを確認しなければいけません。神さまが本当に負えと言った人の重荷を負っているかを確認しなければいけません。自分には関係ない・つながりはない・私にはこの人について考える必要はない…しかしその人に対して私たちがムカッしたりイラついたり喜んだり嬉しかったりしたのは全て他の人ではなく私たちに気付かされたのです。私たちの行動を起こす概念は「つながり」のためではなく「自分のため」になってきています。私たちが興味をもつところは自分のためではありません。神さまは私たちに永遠の計画をもたれています。全ての行動がこの神さまの計画を果たすためにすべきです。では、この計画がどこにあらわされるのでしょうか？私たち1人にあらわされるのでしょうか？神さまの計画をあらわすのに1人でやったことはありますか？神さまはどんなことがあっても必ずつながりの内にあらわされます。関係がないのに2人3人いないと神があらわされないなんてことはありません。わが名によって集まるとは1か所に集まることではなく同じ思いであること・思いを1つにすることです。だから私たちは何かを神様に示されて祈るときもあるし情報として得る時もあります。その時に「自分には関係ない」と思っただけではいけません。逆に自分が祈られていることもあるのです。だから、私たちがその関係を大切にしなければいけません。神の計画の内に進むために①思いやるといことです。(ヘブル13:1~3) 私たちはその人と同じ目にあわなくても肉体を持っていて経験してきたことから分かるのです。神さまは人それぞれにのり越えられる最大限の訓練を経てチャレンジすることを教え、人の痛み・弱さ分かる人に成長させてくれているのです。神さまの永遠の計画の中にそれが入っているのです。私たちを通して苦しんでいる人たちが救われるためです。私たちも痛みや苦しみを背負われたのです。誰でもつながりによってあらわされるのであれば相手の身になって思いやらなければいけません。②区別しない関係ある・無いと区別するのはやめましょう。やれと言われていることを勝手に判断して「まあいいや」と線引き(区別)をしてはいけません。神さまの計画があるのだから、その計画に当てはまるまでやらなければいけません。頭の中で色々考える必要はありません。やれと言われたこと・気づいたこと・導かれたことをすればいいだけです。(箴言22:15~17) 子どもは鉛をくれると聞くといつて行ってしまいます。あげないと言ったらヤダと言います。子どもたちは自分たちで従うレベルを決めているのです。区別をしているのです。大人でもそうです。自分が豊かになるからやる・お金持ち相手だからやる…そういう人は必ず乏しくなると書かれています。私たちは自分には関係ないと思われる人こそ、御使いだと知らずに旅人をおもったあのロトのように自分たちが正しいと思うことをしなければいけません。そうするとロトのように神の使いだとは分からなくても自分に対してなにか大切で大きなことなんだと分かるのです。神の計画に当てはまる何となく「これは大切なんだ」と分かるのです。知恵あるものの言葉・神さまの言葉を語る人の言うことを聞いて従いましょう。また、自分が神さまの言葉を語るものになるかもしれない。お互いに聞き聞かれる関係でなくてはいけません。誰から語られようとも、それが知恵あるものの言葉・神さまの未来の計画について語られる言葉であれば聞き従いましょう。③共に協力・共に祈らなければいけません。イエス様が癒しを行われるときは必ず相手に「良くなりたか」と聞かれています。どうにも背負えない状況でもその人の良くなりたかという気持ちに「共に」協力し奇跡を行っているのです。自分だけが行えばいい・相手ができないから自分がすればいいということではありません。「共に」担わなければいけません。自分に対して何か祈ることがあるとき・問題があるとき、信頼がおける人と共に手をとり祈るべきです。逆に困っている人がいたとき、その人と思いを取り替えるぐらいの気持ちでその人のことを思いやって共に担いあって祈るべきです。まず共に祈って共に協力し行動に移しましょう。祈ってやるとやりたくないと思うこともできます。神さまに聞けばやらないといけなことも分かります。私たちに神さまから鍵が与えられています。私たちが役目を果たさずその鍵が使われないと困って立ち往生してしまう人がいるのです。もう「関係ない」なんて言うのはやめましょう。私たちが気づいたことは私たちがつないで関係を持っていきましょう。(要約者：行司佳世)